



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

FRB 2015
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 49 no. 2

Published by JAIP 1-32-5 U.S.P Higashishinagawa Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002

Call:03-5479-7269 e-mail:office@jaip.jp

総務セミナーから 「日本酒を通じて 世界に発信しよう 日本の文化」 (総務委員会主催)

皆さん、お酒好きですか？

お酒の強い弱いにかかわらず、気の置けない仲間と酒の席を持つことは何よりも楽しいものです。また、ビジネスの場でも話をスムーズにするのにお酒が大きな役割を果たしているの
は言うまでもありません。たまに失敗もあるかもしれませんが…

日本では世界各国の様々なお酒を楽しむことができますが、やはり日本酒に勝るものはありません。外国からお客様をお迎えした時にも日本酒を召し上がって頂く機会は少なくないと思います。

今回のセミナー「日本酒を通じて世界に発信しよう 日本の文化」の講師である平出淑恵さんは、JALのキャビンアテンダントとして勤務されていたときにソムリエの資格を取得され、ワインの素晴らしさ



平出淑恵氏

を通じて多くの方と交流されてきました。ある時、京都の蔵で絞り立ての大吟醸を飲まれたとき、日本酒にもワインにも勝る可能性があることに気づかれ、現在はその素晴らしさを世界に伝える活動をされています。

現在、日本酒の蔵元は厳しい状況下にあります。人口減や生活習慣の変化などの理由で日本酒を嗜む人が減少しており、外国人に日本酒が知られているといっても、その輸出規模はフランスのワインやイギリスのスコッチウイスキーに比べるととても小さいそうです。業界自体が零細な蔵元の集まりであるため、海外への発信もなかなか難しいものがあります。

平出さんはワインのネットワークを日本酒に活用できないかと考え、世界的なワインスクールであるWSETで、蔵元による日本酒講座を開催しました。その席上で世界的なワインの権威の大勢が日本酒の素晴らしさに感激したそうです。また、フランスの



ワインシュバリエ（騎士）の活動を参考に、日本酒を国内外に広く発信する「酒サムライ」活動事業にも携わっています。この活動により、世界最大のワインコンペティションである「インターナショナル・ワイン・チャレンジ (IWC)」に日本酒部門が開設されました。このような活動を通して、日本酒の海外への販路開拓や、日本国内の日本酒に対する再認識が大きく進んだそうです。

さらに、現在では外務省の在外公館での日本酒のもてなしや、農林水産省による海外向けのテレビ番組の制作など、全省庁で日本酒振興のための「國酒プロジェクト」が進んでいます。この活動は民主党政権時代に始まり、安倍政権にも引き継がれ、官民ぐるみで今後一層の日本酒の世界進出が期待されます。

セミナー第二部では試飲会が開催されました。IWCでのトロフィー受賞酒を中心にした7種の日本酒が用意され、お料理は逗子の「茨 湘南」による「日本酒に意外と合う洋食」という12種を楽しむことができました。日本酒の肴が和食ではなく洋食というところがポイントです。7種のお酒はそれぞれ個性を持っており、その特徴を賞味することができました。それぞれのお酒が料理に程よくマッチし、料理に対する包容力が高かったらワインよりポテンシャルが高いのかも？とあらためて思った次第です。

試飲会とは思えない程の充分な量のお酒を、美味しい料理で楽しむことができ、会場はセミナーというよりはパーティーのように盛り上がりました。

現在我が国では観光をはじめとするインバウンド経済の成長に期待が集まり、政府もそれを重要視した政策を掲げており、日本酒も大きな役割を果たす

ことは間違いありません。

平出さんの人材育成とコラボレーションのお話はビジネスを考える上でとても参考になりました。特に、蔵元と世界をつなぐ活動は我々の業界に類推できることが少なくありません。

最後に、このように充実したセミナーと、美味しいお酒と料理を楽しむことができた試飲会を同時に企画頂きました、細谷理事をはじめ関係者各位に厚くお礼申し上げます。

ユサコ株式会社 名川 暢学

2月20日発売のフジサンケイビジネスアイに本セミナーの記事が掲載されています。

WEBでもご覧いただけます。URLは以下です。

<http://www.sankeibiz.jp/smp/business/news/150220/bsl1502200500001-s.htm>

●講師紹介

平出淑恵（ひらいで・としえ）氏

日本酒文化を世界に広げる「コーポ・サチ」代表
1983年に日本航空入社。「空飛ぶソムリエ」として活躍されるかたわら、IWC日本酒部門創設に尽力。
2011年独立。「Sakeから観光立国」めざして活躍中。

酒サムライコーディネーター

IWC (International Wine Challenge) Ambassador Japan
乾杯Sake学苑校長

Tetsuya's SAKE DIRECTOR

観光庁・酒蔵ツーリズム推進協議会メンバー

総務省 地域人材ネット観光振興 地域ブランド民間専門家

農林水産省 2015年ミラノ万博 日本館サポーター

外務省 赴任前研修 日本酒講座コーディネーター



セミナー試飲会

2015-16年度役員選挙結果発表

役員選挙の開票が2月13日にWileyにて行われ、以下の通りとなった。

開票結果（かっこ内は会員代表者）

【理事】（5名）

当選

- 株式会社 極東書店（相澤久俊）25票
- センゲージ ラーニング(株)（松村達生）25票
- ビューローホソヤ（細谷愛子）22票
- 株式会社 絵本の家（小松崎敬子）19票
- 株式会社 雄松堂書店（東端和裕）18票

次点

- 株式会社 東亜ブック 12票

【監事】（2名）

当選

- 丸善 株式会社（土方裕之）9票

株式会社 南江堂（青柳三樹男）7票
次点

ユサコ 株式会社 6票

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社 6票

投票率は75.5%でした。

選挙管理委員会

委員長：長谷 整 [ワイリー・ジャパン株式会社]

委員：

上島和彦 [株式会社教文館]

木原健策 [東京洋書株式会社]

鈴木 修 [株式会社三省堂書店]

竹花 博 [株式会社ネリーズ]

深町恒之 [トムソン・ロイター・プロフェッショナル株式会社]

藤野寿也 [ワイリー・ジャパン株式会社]

事務局：正田 実

新年賀詞交換会

1月9日の暖かい日にJAIP新年賀詞交歓会が国際文化会館で開催されました。

担当理事の細谷さんから歓迎の挨拶、続いてグレスチャム副理事長の乾杯で開宴。

今年も多数の方の参加で賑わい、笑顔での挨拶、名刺交換をされているのが見られました。

途中新たに協会に加わりましたOECDの樋口さんから決意表明があり、これからも協会の皆様と共に頑張りたいと思いました。



和気藹々の時間は過ぎるのが早く、最後はユサコの山川社長のご挨拶と力強い一本締めで会を終わりました。

■ お知らせ

退会（12月31日付）

ファイドン株式会社 代表者：青木有子

会社代表者の交代（2月末）

株式会社 マクミラン ランゲージハウス

代表取締役 新：ダーレン・ハリデイ 旧：小野春夫

■ 公告

2015年度の総会は下記の通りに行う

日 時：5月15日（金）午後4時30分～

場 所：国際文化会館

海外ニュース

英国出版界の著者別年間売上ランキング2014

2014年を通して、児童書の好調な記事がめだつたが、紙の本の著者別売上げランキングはその事実を裏付けるものだった。今年も<グラフィック>(ドナルドソンの著書『もりでいちばんつよいのは?』)に出てくる怪物)の栄光は続き、ジュリア・ドナルドソンが2年連続で首位を守った。ドナルドソンの2014年の売上げは1270万ポンドで、Nielsenが調査を始めて以来、5年連続で1000万ポンドを超えたのは彼女だけである。

上位20位のうち、児童書の著者はじつに半数の10人にもものぼる。上位50人の総売上げ1億6500万ポンドのうち43%が児童書の分野でのものだ。特筆すべきは、<パートタイム>の児童書作家が児童書全体の売上にかなり貢献しているということだ。例えば、映画化された『コレクター』(1997年 主演:モーガン・フリーマン)などサスペンス小説で有名なジェイムズ・バタソンの売上げ790万ポンドのうち、110万ポンドはYA (Young Adult)小説からのものだ。

新刊やベストセラーに売上げが集中しなかったのも、2014年の特徴だ。年間200万ポンド以上の売上げのあった著者は、2013年は47名いたが、2014年は38名に減っている。また、上位100位の総売上げは2億3470万ポンドで、2013年と比較して10.3%のダウンだったが、101位から1000位までの総売上げは3億2030万ポンドで1.4%上昇していた。データから導き出される結論は——すくなくとも紙の本に関するかぎり——新刊やベストセラー作家のシェアが減り、中堅作家の著書や好評既刊書の継続的な需要が増えたということだろう。

ノンフィクションの分野にも変化の見られた年だった。従来は料理本、セレブ本、スポーツ選手の回想録が首位を占めていたが、2014年は苦戦を強いられた。

紙の本におけるフィクションの売上げの落ち込みは顕著だ。2009年には上位50位のうち28人がフィクションの作家であり、総額1億1720万ポンド、上位50位の49.6%を占めていた。ところが2014年は、上位50位のうちフィクションの作家は21人、上位20位のなかではたったの6人、そして総売上は6210万ポンド、上位50位の37.6%にまで落ち込んだ。

《著者別トップ10》 ()内は売上金額

1. Julia Donaldson (£12,746,520)
2. David Walliams (£9,155,609)
3. John Green (£7,989,059)
4. James Patterson (£7,906,320)
5. Mary Berry (£6,735,792)
6. Jeff Kinney (£6,718,030)
7. George R.R. Martin (£6,642,912)

8. Jamie Oliver (£5,752,959)
9. J.K. Rowling (£5,485,549)
10. Lee Child (£5,011,199)

英国出版界の著者別売上ランキング2014 <翻訳本>部門

ジョー・ネスボ(1960年生まれのノルウェーの小説家。推理小説の刑事ハリー・ホーレンシリーズや、児童書Doctor Proctor's Fart Powderシリーズなどで有名)が4年連続で翻訳本部門のトップを飾った。ネスボはこれで5年連続で100万ポンド以上の売上げをあげている。これは、パウロ・コエーリョ(1947年生まれ)のブラジルの小説家。『アルケミスト—夢を旅した少年』や『星の巡礼』が有名)が、2001年から2010年まで9年連続で100万ポンド以上の売上げを記録したのに次ぐものだ。

村上春樹の『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』は2014年の文学的ヒットであり、ハードバックだけで32,000冊を売上げた。一方、ヨナス・ヨナソン(1961年生まれのスウェーデンのジャーナリスト・作家)の処女小説『窓から逃げた100歳老人』は、英訳本だけでなく、各国語訳で合計100万ポンド以上売れ、映画化がさらに拍車をかけた。フランスの“経済界のロックスター”ことトマ・ピケティの、700ページで30ポンドもする『21世紀の資本』は、まちがいに最も予想外のヒットと言えよう。

悲しいことだが、偉大な作家の死が売上げをあげることもある。2014年4月に亡くなったガブリエル・ガルシア=マルケスは、売上げが150%アップした。

《翻訳部門トップ10》

1. Jo Nesbo (£2,238,493)
2. Jonas Jonasson (£1,978,665)
3. Haruki Murakami (£1,248,600)
4. Thomas Piketty (£926,222)
5. A & D Mizielińska (£753,715)(ポーランドで人気の絵本作家夫妻。『マップス: 新・世界図絵』がヒット)
6. Hergé (£646,869)(1907-1983。ベルギーの漫画家。タンタンシリーズが有名)
7. Paulo Coelho (£523,792)
8. Hajime Isayama (£485,852)(諫山創:『進撃の巨人』の漫画家)
9. Takashi Hiraide (£472,206)(平出隆:1950年生まれ。詩人・批評家、装填家。小説『猫の客』の英訳本および各国語訳本がヒット)
10. Gabriel García Márquez (£439,545)

トマ・ピケティ著「21世紀の資本」について

($r > g$ 資本収益率は成長率を上回る)

昨年来、世界各国で大ベストセラーになっている評判の本である。2013年に仏語の原著(Seuil社)が出版され、昨年4月に英書(Belknap Press/Harvard U.P)が刊行されるや、瞬く間に大ヒットとなった。独語、中国語、韓国語そして邦訳(みすず)も昨年末に出版され、すでに6刷を数えている(合計で100万部超とも)。「この10年で最も重要な経済学書」と絶賛しているノーベル経済学賞受賞者のポール・クルーグマン、「スマートな人たかを富と所得格差の研究に惹きつけることを望む」と述べるビル・ゲイツ。一方で、批判的な立場の研究者も数多く書評等で取りあげていることが大きな反響を呼んでいる要因になっているでしょう。

著者のトマ・ピケティ氏はフランス人。1971年生まれであるから、1989年に18歳を迎えた。「この年がフランス革命200周年というだけでなく、ベルリンの壁崩壊の年でもある。共産主義独裁制崩壊のニュースを聞きながら成人した。そうした政権やソ連に対してはいささかの親近感もノスタルジアも感じたことはない。格差や資本主義の糾弾それ自体を自己目的化する気はまったくなく、格差、社会的格差が正当なものなら、それ自体は問題ではない」と自らの知的道のりの一端についてこう述べている。この言葉からも明らかであるように、マルクス主義者ではなく、経済理論家としては近代経済学の立場に立っていると言えるでしょう。

本文(邦訳)だけで608ページ、原注等が100ページ近くあるという大著で、読了するには相当骨が折れるのではないかと思います。研究者や読書家の方からは、「知的好奇心を掻き立てられ、一気に読み終えられた。」との書評、紹介等を多く目にしますが、私のような浅学非才な人間にとってはとんでもなく厄介なものでして、年末年始の数日、ただ読了することを唯一の目標に取りかかりましたが、とても「読みきった」とはならず、「ななめ読み、つまみ食い」のレベルに留まってしまった。そうした人間がこのような形で書籍の「紹介」じみたことをするのは全くもって不遜であり、厚顔無知だと言われることを覚悟して、いくつか感想を記してみたい。

巷間伝えられているように、本書の第一の特徴は、3世紀に亘る世界の富と所得の分配に関する膨大といえるマクロデータを収集・整理して、資本主義の下では世界大戦や恐慌期を除き、資本の集中や格差が進む傾向にあるという実態を明らかにしていることです。米国やフランスで消費社会が頂点を迎えたベルエポックではとくに富、所得が一部の階層に集中し、格差は非常に大きい。そして現代、1980年代以降、世界各国とりわけ先進国での富と所得の格差は更なる急激な拡大の現実を露呈し、そのことは遺産相続により、拡大再生産されるという「世襲型」資本主義化しているとの指摘をしています。

本書の特徴の第二は、こうした現代の格差(拡大)をどうするのか、どう改革するのかという点について政策提案をしていることです。著者は、この改革のカギとして現代資本主義の格差

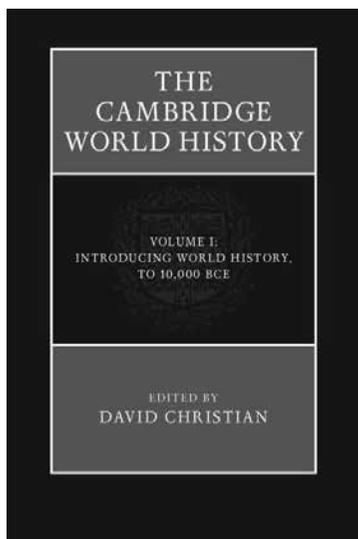
拡大の脅威を回避する(唯一の)方策として相続税、贈与税、所得税、固定資産税を中心にした累進課税制の導入、大胆な見直しを提言しています。そして、このような徹底した累進税制を確立するためには今日のグローバル化した資本主義のもとでは国際的な協調、情報の透明化が何よりも不可欠であることを強調しています。著者はまた、こうした提言への「非現実的、空想的」との批判にたいしては、「5年前にスイスの銀行の秘密主義が崩れると考えた人はどれほどいたのだろうか?米政府がスイスの銀行に迫った結果だ。従来の慣習は打破され、透明性が高まった」と述べ、「資本への民主的コントロールなしには資本主義が21世紀に存続することは危うい」と警告しています。日本についても、随所で論究しています。1970年以降、世界で最も壮大なバブルはまちがいない日本のバブルで、80年代日本の民間財産の価値は国民所得4年分超だったのが急成長をとげて、80年代終わりには7年分近くにもなったことを挙げています。さらに今日、多くの先進国が抱えている巨大な借金問題と再分配に関し、「欧州、日本で忘れられがちなことがある。それは民間資産の巨大な蓄積で、日本の民間資本、民間資産が70年代にはGDPの2.3倍だったのが、この数十年で6.7倍に増えている。」「かつ日本は欧州各国より大規模で経済的にはしっかりまとまっているので、税制、財政、教育などの政策を持つことは容易であろうから、もっと累進的な税制を作り上げることが可能」と述べています。

繰り返しになりますが、トマ・ピケティは「資本主義を否定するつもりはない」という立場の研究者ですが、今日の資本主義が生み出す経済的な格差(不平等)には強い危機感をもっており、富裕層への課税強化による是正の必要性を強く訴えています。今日の世界がサブプライム問題をきっかけとした金融危機がおこったり、Wall街からの抗議運動(occupy)、日本でも「蟹工船」がブームになったことなどを考えあわせるならば、「資本主義の限界」ともいえる状況が沈殿しつつあるのかもしれない。ピケティが最終目標をどこに置いているのかはわかりかねますが、彼のいう「道徳的な規律を持たないところが資本主義の問題点であり、これを補うための民主的な制度にもとづく管理が急ぎ必要だ」という当面の課題認識には納得のいくところです。同時に「この本で書いたのは不平等についての経済の歴史というより、政治の歴史です。不平等の歴史はすべてが政治と選択される制度によるのです」と彼自身はのべていますが、まさに現代のグローバル化した世界においては国、国境をこえたレベルでの経済コントロール、市民を基礎とした民主的な主権の確立等の構築が求められているのではとの考えを巡らせながら、筆を置きたいと思います。

2015年1月

CAMBRIDGE

ケンブリッジ版世界史 全7巻 (9冊)



April 2015
7 Volume Set (9 Books)
5294 pages
978-1-107-10772-4
US\$1350.00

The Cambridge World History

General Editor Merry E. Wiener-Hanks

The Cambridge World History is an authoritative new overview of the dynamic field of world history. It covers the whole of human history, not simply history since the development of written records, in an expanded time frame that represents the latest thinking in world and global history. With over two hundred essays, it is the most comprehensive account yet of the human past, and it draws on a broad international pool of leading academics from a wide range of scholarly disciplines. Reflecting the increasing awareness that world history can be examined through many different approaches and at varying geographic and chronological scales, each volume offers regional, topical, and comparative essays alongside case studies that provide depth of coverage to go with the breadth of vision that is the distinguishing characteristic of world history.

Volume 1: Introducing World History, to 10,000 BCE

Edited by David Christian

April 2015 496 pages Hardback 978-0-521-76333-2 US\$170.00

Volume 2: A World with Agriculture, 12,000 BCE–500 CE

By Graeme Barker and Candice Goucher

April 2015 549 pages Hardback 978-0-521-19218-7 US\$170.00

Volume 3: Early Cities in Comparative Perspective, 4000 BCE–1200 CE

By Norman Yoffee

April 2015 592 pages Hardback 978-0-521-19008-4 US\$170.00

Volume 4: A World with States, Empires and Networks 1200 BCE–900 CE

By Craig Benjamin

April 2015 680 pages Hardback 978-1-107-01572-2 US\$170.00

Volume 5: Expanding Webs of Exchange and Conflict, 500CE–1500CE

Benjamin Z. Kedar and Merry Wiesner-Hanks

March 2015 720 pages Hardback 978-0-521-19074-9 US\$170.00

Volume 6: The Construction of a Global World, 1400–1800 CE

Part 1: Foundations

By Jerry H. Bentley, Sanjay Subrahmanyam and Merry Wiesner-Hanks

March 2015 512 pages Hardback 978-0-521-76162-8 US\$170.00

Volume 6: The Construction of a Global World, 1400–1800 CE

Part 2: Patterns of Change

By Jerry H. Bentley, Sanjay Subrahmanyam and Merry E. Wiesner-Hanks

March 2015 528 pages Hardback 978-0-521-19246-0 US\$170.00

Volume 7: Production, Connection, and Destruction, 1750–Present

Part 1: Structures, Spaces, and Boundary Making

John McNeill and Kenneth Pomeranz

April 2015 600 pages Hardback 978-1-107-00020-9 US\$170.00

Volume 7: Production, Connection, and Destruction, 1750–Present

Part 2: Shared Transformations

J. R. McNeill and Kenneth Pomeranz

April 2015 500 pages Hardback 978-0-521-19964-3 US\$170.00

 **United Publishers Services Limited**
A Cambridge University Press company

1-32-5 Higashi-shinagawa, Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002 JAPAN Phone (03)5479-7251 Fax (03)5479-7282

日本洋書協会会報 vol.49 No.2(通算533号) 発行日2015年2月1日 編集者 平野 覚

発行所 日本洋書協会 〒140-0002 東京都品川区東品川1-32-5 U.P.S. 内 TEL 03-5479-7269 FAX 03-5479-7307

URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:office@jaip.jp